

令和5年度第2回西区地域包括ケアシステム推進会議

- 1 日時 令和6年2月21日（水）14時～
- 2 場所 西区役所3階 健康センターホール
- 3 出席委員（敬称略）18名
田嶋 哲、（代理）杉野 東生、津田 美希、鈴木 昭彦、坂元 隆行、伊勢野 美代子、川上 喜久、藤原 通隆、中島 花江、秦 英房、前田 律子、徳丸 由美子、（代理）宮崎 義隆、和泉 翔大、（代理）岡田 一大、窪田 寛史、（代理）本田 美香、（代理）岩村 澄子
*欠席 榊隅 守人、森田 義幸
- 4 区長挨拶
- 5 議事
(1) 令和5年度（2023年度）熊本市地域包括ケアシステム推進会議について（報告）
(2) 免許証返納に関するアンケート結果について

議事録等（要旨）

○事務局

- (1) 令和5年度（2023年度）熊本市地域包括ケアシステム推進会議について（報告）
説明

○会長

ご報告ありがとうございました。私の代理で出席した委員から補足はないか。

○委員

今回は、私が会長の代理で出席した。西区からはご説明のとおり、高齢者の運転免許証返納のこと、それから民生委員の負担軽減の2つの課題について話があった。今回の第一層の会議は、関係機関のキーマンが集合され、どうしても限られた時間の中で、各区と市の取組報告とあわせて、関係機関から認知症対策、それから担い手不足の懸念が出され、報告と情報共有で時間切れとなった。

第一層の会議は、地域包括ケアシステムの構築とか精神というところは触れられてあったが、大きな組織が動きだすには準備が大変じゃないかと思ったところ。一般的に出席人数が多い会議については、報告や情報共有となる傾向があるので、具体的な検討は難しいのかなと思った。

例えばこの会議もそうだが、年2回開催される場合は、報告とか情報共有を行う会議を1回と具体的な地域課題の解決に向けた検討を行う会議を1回開催するなど工夫してはどうかと思う。

○会長

ありがとうございました。では、今、説明がありました市の地域包括ケアシステム推進会議について何か御意見、御質問等ありますか。

○委員

民生委員の負担軽減の提言を出していますが、最初の頃からすると今のほうがかなり民生委員の役割が多いと感じる。現在、うちの三和地区でも35名中2名が欠員となっており、欠員になっているところが埋まらない。福祉課から自治会長さんたちに推薦のお願いも来られているが、自治会長さんたちが民生委員の必要性や役割をあまり知らない人が多い。もう少し民生委員の役割を福祉課のほうから、自治会長さんたちに必要性というのを説明していただくようお願いしたい。

○委員

事務局のほうから何かございますか。

○事務局

民生委員さんたちへのアンケートによると、相談する相手方の対応に苦慮されており、プライバシーにどこまで踏み込んでいったほうがいいのか戸惑うとか悩みがあるので、行政でもある程度のガイドラインを示しながら民生委員さんたちにお仕事をしていただいているところ。今年度に関しては、行政の内容について、例えば、こういったときは、ここの部署に相談に行けばいいとか、そういった研修の内容を充実させたところではあったが、今後、自治会長さんたちへのアプローチを含め、いろいろ支援を考えていきたい。

○会長

次に議事（2）免許証返納に関するアンケートの結果の説明を事務局からお願いしたい。

○事務局

（2）免許証返納に関するアンケートの結果の説明

○会長

今回のアンケートで、ささえりあの方々が関わっているので何か補足はないか。

○委員

このアンケートは、熊本地域路線バス共同経営推進室からささえりあ、福祉課へアン

ケートの協力依頼が来たところがスタートだった。

1 回目の区推進会議で、地域課題として免許証返納の議題があったので、アンケートの結果を活用させてくださいということを依頼先に申し入れて了解を得て、集計、分析をしている。

私は東区でも働いていたが、車の課題は年に数回出てくる。

東区で、短期記憶障害がある方が運転されていたので、奥さんに、「ちょっと危ないですよ。」と言っても、「この人は運転神経がいいから、私が指示出せば大丈夫。車じゃないと買物に困る。」と言われた。

そのほか、こどもさんが無理やり親の車を廃車されたケースがあったが、しばらくしたら自分で車を買に行かれていた。

昨日も、短期記憶障害の方が車を乗っていなかったで、ご家族の方が廃車しようとして、今月 2 回廃車に出したが本人がすぐ車を取戻しに行くということがあった。こういった事例からも、なかなか免許証返納は難しいと感じている。

今回のアンケートを見ていると、自由記載欄に買物を課題に挙げられている方が多い。

また、バスを使ったことがない方の割合が結構いらっしゃって、4 年以上乗っていない方もいたので衝撃を受けた。

以前、健軍商店街を中心として、デマンドタクシーやバス券を活用した新たな事業を検討しようとしたがうまくいかなかった。

よく考えてみると、「バスとかを走らせますよ。」と言ったとしても、普段から利用していなければハードルが高いので、デマンドタクシーやバスに関しては、支援をしないとなかなか使いづらい部分がでてくるのではないかと思う。私も、将来的なことを考え、休みの日や飲み会の日などはバスを利用するようにしている。そういった意識改革の部分については、介護予防もそうだが、若い年代から啓発をしていかないといけないというのを、今回のアンケートを通して感じた。

○会長

ありがとうございます。そのほか、御意見とかありますか。

○委員

私は、市のタクシー協会の理事をしているが、今のタクシー業界は、コロナで運転手が 2、3 割辞めてしまい、ほとんど電話予約ができないということになっていて、お客さんから苦情がかなりきている。運転手の給料が安いので、ほかの職業に転職している。

私は 70 歳になったので、先日、免許更新に行って自動車学校で高齢者講習を受けた。外周とクラックと車庫入れがあり、さらに、ちょっとした段差のところに車をとめ

て、アクセルを踏んですぐにブレーキを踏む検査があったが、あれぐらいだと結構皆さんできる。75 歳になると今度は認知症の検査があるが、もう少し運転技術のほうを検査し、この運転だとちょっと危ないじゃないかといった判断をしていただきたい。

河内、芳野の人に聞くと、「免許がないと買物をどうするのか。」、「軽トラックで販売するところが回ってくることもあるが、自分が欲しいものは自分で買物に行ったほうがいい。」と言われる。

免許証の自主返納は、こどもさんから親に直接言う場合もあるが、私も何年前からずっと相談も受けている。50 歳代の娘さんが、お父さんの運転が危ないので、どうしたらいいですかという相談があっても、なかなか一緒に免許証返納しましょうと立場上言えない。だけどそれによって今度は事故が起きたら大変。

ブレーキとアクセルの踏み間違えで、この間も大学生が2人はねられて1人亡くなっていたが、運転の技術は大丈夫と思っても、周りから見ると結構危ないところがある。

個人タクシーの運転手で最高年齢88歳の人がいる。自分で大丈夫と言っているが、車庫入れが斜めになっていて、私から見ると危ない。

事故が起こらないようにはバスを利用するのがいいが、今もお話しがあった通り、デマンドタクシーがあってもそれを利用する人がいなければ意味がない。

先日、産交バスとか都市バスが1日だけ運賃無料を実施していたが、利用客の数がすごく多く、話によると、田迎から夕方6時にバスに乗ろうとしたら乗客がいっぱいで、次のバスを利用してくださいと言われたとのこと。

故に、バス会社が、もう少しバスの利用を促して、運賃を安くしてくれると利用客も多くなると思うが、免許の自主返納というのは難しいと思う。

私も今70歳だが、いつまで運転できるかというのは状態を見ながら自分で判断しないと難しいと思う。

○委員

実際、ドライバーの立場から見ると、このアンケート自体はバス会社中心のアンケートなので、もともとの路線があるところで利用しやすい方と、もう路線がなくなって日頃利用しない方で随分回答に差があるのかなという気がしたので、地区ごとのニーズに合わせた対策をとっていかなければならないと思った。

○委員

お年寄りを買物と、病院行きが結構多いと思う。

先日、病院に行ったときに、区役所の停留所は何番、どこの病院の停留所は何番といった乗り合いタクシーがあったので、病院の受付に聞いて最近知った。お年寄りの方たちは、こういうのがあるのは御存知だろうか。そういうのを知って、使って便利だから、もう免許証はもういいのではないかというふうになるといい。

予約制かどうかなど、システムについてはよく私もわかっていないので、教えていただきたい。

○事務局

今お話しがあったのは、「チョイソコくまもと西南」という名前で、8人乗りの乗り合いタクシーとなっているもの。コールセンターに電話し、予約をして利用することとなっている。予約はその日でも大丈夫だが、実証実験期間中で、車が1台となっているため、利用時間帯によっては予約が重なるときもあると聞いている。

小島、中島地区でも、病院とか買物ができるような停留所が増えている。運賃は何回利用しても1日300円となっている。

これは私が市のホームページで検索し、チラシをダウンロードしたものであるが、皆様のところにお届け出来たら周知に一役買っていただけるかと思う。

市のホームページで『チョイソコ』で検索をしていただくと、乗り合いタクシーが出てくるので一度お調べをいただきたい。また私どものほうからもチラシをお出しできるように、資料を用意したいと思う。

○委員

昨年8月末からAIデマンドタクシーの実証実験が始まり、それまでは天明地区で既に進んでいた。中島校区は校区内に商業施設が全くなく、高齢者の方々は、今までは病院や買物に行くのは自家用車だったので、移動するために高い交通費を出したくないというのが本音のところだと思う。

それに代わる代替手段として、現在運行されているAIデマンドタクシーは、1台で運行しているため、なかなか自分の希望どおりの予約がとれないといった事例もあるが、お年寄りからの期待は非常に大きい。

AIデマンドタクシーの周知もずっとここまで重ねてきて、町内の停留所も1月15日からかなり増えた。各自治会長さんも苦労して停留所を拡大し、もちろん最終的には市が実施したが、先ほどのチラシをもう1回各家庭にお配りしたところ。これから利用したいというお話もあって期待が大きい。

実証実験が終わって、本当に運行されるようになれば、車の台数も増えると聞いている。現在の運行時間は朝の8時から午後4時までだったと思うが、御高齢の方からは、運行時間を拡大してもらいたいという意見が結構ある。そうなってくると、非常に利用されると思う。

○委員

実際、AIデマンドタクシーを利用されている方のお話をさせていただく。

90歳でスマートフォンを使われる方は、病院までワンメーターないくらいだからタク

シーはちょっと呼びにくいということで、AI デマンドタクシーを使いこなしていられっやる。それで病院を利用するときは行き帰り予約できだが、病院の混み次第もあるので、帰りの事前予約が難しいとのことだった。

また、歩行器をバスに載せるのは大変なので杖歩行ぐらいまでの方なら御利用できるかなという意見もあった。

さらに、停留所から離れている場合、荷物を持って家に帰るのが大変なので、台車かなんか用意しないといけないという意見もあった。

私たちは、まずは一緒にやってみるなど、利用することをこれからしないといけない。

○委員

高齢者や障害を持った方の移動手段ということで、最近経験したことがありましたので御紹介させていただく。

脳卒中の後遺症で、高次脳機能障害をお持ちで、複数のことが起きると混乱するので車の運転は難しいケースがあり、医師やケアマネジャー、関係者で話合って、別の代替手段を考えて、デマンドタクシーが片道250円で走行して運行されている地域だったので利用した。

銀行や近くのスーパーも行ってくれるため利便性がいいかなと思ったが、本人からすると、もっと自由に、自分の好きなようにしたいというところがあって、ご本人の希望に沿わないことがあった。

とても危ない状況だが、現在はシニアカーを選択したいという気持ちがあり、ご家族と相談しているところ。本人にどこに行きたいかと聞いたら、お墓参り、銀行、買物、病院、といったキーワードとして出てきた。

お墓参りは一緒にお墓まで行ったが、車やシニアカーでは行けないくらい急勾配だったので、御親族の協力を得るしかないかなと思った。

実証実験の範囲外でも実際お困りなので、地域の中でチームとしてひとりひとりの気持ちに寄り添いながら、行き先の場所の確認をすることも考えないといけない。

なお、シニアカーは購入すると40～50万円、レンタルすると2万円程度する。また、熊本市以外の市町村では、積極的に免許証返納のための特典を準備されていると聞いた。

○委員

シニアカーの話をちょっとさせていただければと思う。

先ほど2万円程度でシニアカーがレンタルできとのことだったが、介護保険の利用で、2万円の1割負担で大体2千円から3千円ぐらいでレンタルすることができる。ただし、要介護2以上が条件である。

それ以外の方、いわゆるシニアカーを使えるような人は要支援の方が多いが、主治医の先生の意見書を行政に提出し、行政が必要との判断が出たら利用できる。現場のケアマネジャーからは、手続きの手間がかなりかかるということで、なかなかそういった方向に話がいかない。

コンビニに買い物をするときは、シニアカーで入っていけるようなコンパクトなタイプもあり、有意義なところもあるので御紹介させていただいた。

○会長

議題は以上だが、初めて参加の委員もいらっしゃるので、自己紹介を兼ねてこの議題に限らずご発言をお願いしたい。

○委員

地域包括ケアシステムの中では、私たちは医療と介護をつなぐ役割を担っており、実際の現場で利用者の支援をしている。

○委員

免許証返納についてはいろいろと課題が多いと思う。高齢者は、自動車が運転できなくなると外出機会が減ることもあるので、ふれあいタクシーの周知に取り組みたい。

○委員

私たちは、西支部で3年計画で災害時のクッキングを学校、幼稚園、保育園、一般の方々に指導し、今年で終了した。最近、池ノ上や芳野地区の老人会から習いたいとの声があり、私たちも嬉しく思っている。

○委員

介護予防やフレイル予防などで、元気クラブや地域ケア会議の地域活動をしている。

○委員

私は、行方不明者の保護や手配などを担当している。

認知症の疑いがある方で、車を運転してそのままどこ行ったか分からなくなったという事案があった。南署管内から、御船、阿蘇、山鹿の方に行って、中央署管内で警察官に止められて発見した。その間、事故もなく、運転はしっかりされるが、自分がどこを走っているのか分からないとのことだった。

実際、認知症の診断があれば免許取消しができるが、認知症の疑いの段階では強制的に取り上げることが出来ない。

認知症疑いの段階では、警察官と家族で自主返納をしてくださいというところで説得

して返納していただくことが多くなっている。

認知症のまま運転すると事故につながるので、私たちも発見したときは、家族も巻き込んで説得して事故がないようにしていきたい。

○委員

免許証返納の相談は三和圏域でも毎月ある。家族や地域の方々からの相談の中で、どうしても本人からの理解を得られないなど悩んでいるが、家族が諦めずに関わり、周りの関係者も本人の思いに寄り添いながら免許証返納の必要性を説明していくことが重要ではないかと思う。

今年度、東区で実証実験（移動寿命延伸サービス実証実験）がっており、来年度からは、熊本市全域にも広げていくことを聞いている。そういった事業を通して、また評価を実際に目の当たりにしたりして、免許証返納の必要性を感じていただけるようにこれから関わっていきたい。

○委員

私は花園校区の担当をしており、今回の免許証返納に関するアンケートは大変興味深い内容で拝見させていただいた。

ちょうど昨日、訪問した世帯のご主人が認知症で、運転免許を持っていない奥様から「お買物と通院は本当に夫に頼らざるを得ないので、私がナビゲーションしています。気をつけています。」と言われていた。何とかバス停まで行けないことはないが、自宅からバス停まで行くのに坂道が多いため、車に頼らざるを得なくなっている。また、バス停までたどりついてはバスに乗るのが大変で、友達に手助けしてもらって何とか乗っている方もいらっしゃるので、本人さん及び御家族の方、また民生委員さん、関係者の方々とも、常に連携とりながら考えていきたい。

○委員

地域包括ケアシステムの動きの中で、市の推進会議の内容も聞いたが、いろんな取り組みがされているなどすごく感じるところ。

先ほど、タクシー運転士さんが不足している話があったが、今から広げていこうとしている AI デマンドタクシーの運転士さんが足りるのか心配。民生委員さんの成り手不足の課題も今後大きくなっていくだろうと思ったときに、いろんな取り組みと、それを支える人手のバランスが悪いと思う。

思いつきではなく、どうしても手をかけないといけないうところと、手をかけずに広げられることを、考え方や見方を変えながらやっていかなければならない。

我々も地域の相談窓口として、自治会長や地域の方々と一緒にいろいろなことに協力しながら考えていくことができればいいと思っている。

○委員

私たちは、芳野、河内地区を担当しており、高齢者の免許証返納については直面している問題である。

特に芳野校区は、路線バスがなく、目的地までタクシー頼んで行かれる方もいるが、自分で運転するという方は自宅から乗れるので、何とか自立した生活が得られている。ひとり暮らしの方や高齢者の方々もいらっしゃるので、このような状況では高齢者の免許証返納は難しいと感じている。

AI デマンドタクシーを芳野校区でも活用できればいいが、ひとりひとりに合わせた状況を考えていくことが必要なのかなと思う。例えば車の自動ブレーキのサポートの補助などを考えてもいいのかなと思う。

○委員

現在、熊本市の民生委員は1400人ぐらいで、100人以上欠員している状況となっているが、富山県は民生委員の欠員がゼロとなっている。

富山県の会長に聞くと、1年前から準備しているとのことだった。

民生委員は75歳が定年となっており、福祉課で今度辞めるのは分かっていると思うので、福祉課と自治会の会長さんなり、その地域の人と話し合った上で、次の成り手を準備することが重要だと思う。

民生委員がいなければ、その町内が誰もお年寄りを見る人いなくなる。

私は民児協会長なので、民生委員が欠員となっている町内の証明事務が発生すると、会長である以上、代理で証明することになる。

これから民生委員の成り手は、ますます少なくなると思う。

私も70歳なのであと5年したら定年となるが、後任の民生委員さんは誰になるんだろうかと考えるときがある。そうならないために、民生委員の成り手不足については福祉課と話し合いながら協力しながらやっていただけると助かる。

○委員

免許証返納に関しては、私は夫婦の中でこういった状況になったら返すということをお互い決めており、それを子供たちにも伝えている。

民生委員の欠員の話もあったが、春日校区は大きく町が変わり、町内が成り立たない状況となり、20名の定員に対して12名が欠員となっている。

証明事務の話もあったが、民生委員は行政職のボランティアであって、何でもするわけではない。地域からはいろんなことを民生委員に頼まれるので負担増となっている。

フレイル予防対策でいきいきサロンや元気クラブなど最初から民生委員が立ち上げに関わっているが、それは民生委員でなくても地域でもできることだと思う。

欠員の多い状況の中で、私たちはフレイル予防対策ということで、小学校1年生の下校の見守りというか、ただ立って、定点見守りではなく、児童と一緒に歩くということをやっている。家を出て帰り着くまで大体1時間はかかる。令和5年度には80歳過ぎた方が2人参加され、今まで家でこもりきりだったのが、こどもたちに会って、立ち話もできてうれしいと生き生きされ、ファッションにしてもおしゃれになってこられた。

市のケア会議でもいろいろお互い様とかあるが、あと10年すると子どもたちが20歳になり、私たちも80歳になるので、逆にこどもたちから見てもらうだろうという気持ちがある。だから今のうちにお互いに顔見知りになって、つながりをつくるというところに重点を置いて活動している。

○委員

私の校区には商業施設や病院が少ないので、他校区に行くには車が必要であるが、お年寄りの方々の運転を見ていると非常に危ないと思う。車のほうも、どこにぶつけたのかボコボコになっている車が多く、免許証返納が必要ではないかと思うが言い出せない状況となっている。

実証実験ではあるが、AIデマンドタクシーが走っているので、校区のお年寄りの方々に周知し、利用の方法を手厚く教え、利用を促したい。それが、高齢者の免許証返納につながって、事故防止になると思っているところ。

○委員

免許証返納の話があったが、うちの町内でも返納された方がいる。

1例は独居の高齢者の方、もう1例は、ご主人が免許証返納され、奥さんのほうは車の免許をもっている。

ただ、自治会、民生委員が一緒になって、免許証返納された後の様子を見ていかないといけないと思う。ひとり住まいの方は外出される機会が少なくなり、認知症が発症することもあると思うので、見守り活動をしていこうということで、民生委員さんとも話はしているところ。

それから昨年12月、河内芳野校区の協議体の会議の中で、災害時の高齢者支援について、日頃、どのようなことが必要か、日々の安心につながる取り組みはどのようなことがあるのかワークショップをした。

高齢化率も40パーセントを超え、独居の高齢者も増え、さらに、町内でも隣保数の世帯数も減っているような状況では、町内の高齢者の方、特にひとり暮らしの高齢者の方へ声かけをする活動が必要ではないかということを話し合った。

そのほか、災害が発生した場合に、「助けてください。」とか、「手伝ってください。」と言えるように、隣保内や町内で声出しができる関係づくりが必要ではないかというお話がでていた。

また、民生委員さんと連携した対応ということでは、私たちの町内では、民生委員と情報共有しながら、ひとり住まいの高齢者の方や夫婦の世帯を把握しつつ、何かがあった場合は連携体制をとってここ数年活動しているところ。

当然、入所されている高齢者もいるので、例えば町内の避難の情報が入った場合には、事業者の方からも連絡をいただく形でやっていこうとしている。

いずれにしても避難訓練を計画しており、いろんな課題を見つけて、今後の防災体制づくりを進めていきたい。

○委員

町内で若い夫婦の方から、「８０歳代後半の方が、後ろに車が来ているのに、分からずにそのままバックされていた。どうかならないものか。」という相談を受けているが、今日のアンケートを参考させていただいて、町内で相談し、その方にも説明できればと思った。

○委員

コロナ禍では保健所で健康観察や訪問看護に携わった。

自宅で様々な環境で暮らしている方や介護保険のサービスの対象となるのに利用されていない方など様々な方に出会う中で、情報の周知が非常に難しいと感じている。

現在は医療依存度の高い方の入居相談を受けており、介護予防活動にも携わっていきたいと考えている。今後は、例えばコミュニティーナースとして、区毎の活動があるときは介護予防活動に携わっていき、何かしら御協力ができればと考えている。

○委員

いろんな会議に参加しているが、このような活発な会議に参加でき勉強になった。

○会長

病院や買い物に行くのを楽しみにされ、それが日課となっていらっしゃる高齢者の方もたくさんいる。その中で、危ない運転で病院受診にいらっしゃる方もいるが、生活のモチベーションとなっているため、一律に免許証返納することはいいとも思わないし、でも危ないなと思い、ジレンマを感じている。

バス停が目の前にあって、バスに乗れば来られる病院ならいいが、バスの路線外の方にとっては車が移動手段となるので、個別に対応しないというところがアンケートで改めて分かった。アンケートで実際のところが分かったので、このような会議は本当に重要と改めて感じている。

今回、様々な意見があったが、次回の会議までに御意見をまとめて活用をしていきたい。

○事務局

本日、皆様からいただきました御意見等を踏まえ、西区での活動推進につなげていきたいと考えている。

令和6年度も西区地域包括ケアシステム推進会議の開催を予定しているが、本日出ましたように、少し会議の形態を、情報共有だけでなく、皆さんの意見を届けてもらう場の工夫をして参りたい。

閉会